

出島関、母校に錦

学生記者・大谷 秀之（写真も）



大関昇進を報告する出島関

大相撲名古屋場所では勝2敗の成績で初優勝を果たし見事、大関に昇進した出島関（本名：出島武春、95年法卒）が7月26日、大関昇進の報告に母校を訪れた。

（裏表紙に写真特集）

晴ればれ 大関昇進の報告

この日は、梅雨が明けてから数日たち、夏の本格的な到来を思わせる猛暑だった。出島関が母校を訪れるということ、数社のスポーツ新聞社が取材にきたため、私も取材陣に

混じって一緒に取材することになった。出島関は昼すぎ、師匠の武蔵川親方とともに、鮮やかな水色の紋付袴姿で現れた。出島関が歩いた後には、髪を結う時につける、ピンツ

け油の甘い匂いが漂っていた。

出島関は、まず

最初に外間学長、

次に高木総長を訪問。このほか大学側からは阿部理事長、各学部長が大関昇進を祝った。

本職にまじって

緊張の質問

その後、取材陣にわずかな時間ではあったが、出島関に質問する場が用意された。私も本物の記者に混じって緊張のなか、いくつかの質問をすることができた。

最初の質問は、出島関が中大で学生生活を送っていたことが実感できる質問をした。それは「学食の好きなメニューは何だったか」というものである。出島関は即座に「1階の



ラーメンでした」と答えてくれた。また、中大生時代の学生相撲とプロの相撲の違いについて聞いてみた。「大相撲の世界は、相撲を優先させるところで、練習量も厳しさも学生相撲とは大違い」とのことだった。中大で思い出に残る場所はこの質問には、さすが相撲部出身らしくきつぱり「道場です」。

学食の好きなメニュー 「1階のラーメン」



学生相撲とプロの世界 「ケイコ量大違い」

まだ、いくつも質問したかったが、出島関も分刻みのスケジュールだったので、これ以上の質問はあきらめた。「このあと、出島関はベテ下へ。」おめでとう、出島関」の横断幕が飾っており、その下を通る出島関をカメラに収めた。

この日はテスト期間も終盤に近づき、学生も少なかったが、出島関が姿を現すと、とたんに周りには人垣ができ、声援を送っていた。

最近、中大関係の運動選手の朗報を、よく耳にする。水泳選手の記録更新や、本誌の7月号にも大きく掲載された、硬式野球部の一部昇格などである。そして今度は出島関の大関昇進。学生相撲出身で大関になったのは、史上4人目である。これからの活躍に大いに期待したい。

◇
そして、出島関にお願いがありません。まだ気が早いかもしれませんが、私が中大に在籍している間に「横綱」になり、学校で横綱昇進のインタビューさせていただけたらと思います。